

教科	算数科
3 学年 単元名『3 けたの筆算のしかたを考えよう』 授業実践・授業研修	
日時	令和7年7月3日(木)
授業者	太田 祐介
本時のねらい	3 けたの引き算を繰り返して計算結果を比べる活動を通して、答えに表れるきまりに気づき、数の不思議さやおもしろさを実感しながら、自分の気づきを友達と比べたり確かめたりすることができる。
キーワード	きまり、探究、発見、規則性、主体的
授業の実際 (本時の子供の姿)	前時の 2 けたの引き算のきまりを思い出す活動から始まり、児童は「今日もきまりがあるのかな?」と期待をもって取り組んだ。3 けたの引き算では、繰り返し計算しながら「また 495 になった!」と驚き、友達と結果を比べてきまりを見つけようとする姿が見られた。全体での確認を通して、さらなる問いも生まれ、気づきから学びが広がる授業となった。
事後協議の概要	事後協議では、次の3点について検討した。1点目は、授業のねらいと評価観の焦点化についてである。「きまりを見つける面白さ」を軸にした授業構成だったが、評価の観点が「主体的な態度」にとどまるのか、「思考・判断・表現」まで含むのが議論となった。評価観に対応した活動設計の必要性が明らかになった。2点目は、誤答や取り残された児童への手立ての重要性についてである。意欲的な児童が多い一方で、誤答や理解不足から学びに主体的に参加できない児童もいた。誤答を活かした交流や確認の場の工夫など、全員の学びを支える仕組みづくりが課題となった。3点目は、きまりの一般化と意味づけへの深まりについてである。多くの「きまり」が出たが、それらが一般化・意味づけされないまま終わってしまっているため、納得感ある学びに向けて、構造的に捉える活動の必要性が指摘された。

